

金曜行動

### 福島事故を風化させない

## 233回目の集会・パレード

2月23日、松江市の県庁前では233回目の金曜行動があり、14人が参加しました。「島根原発再稼働反対」「日本海を守れ」とコールし、中国電力島根支社までパレードしました。(写真)



パレードで初参加の学生・大西寿弥さん(22)は「福島原発事故を風化させてはいけません」と訴え、「私も毎回参加します。これからも行動を続けましょう」と述べると、参加者

から拍手が起りました。帰宅中の男性(42)は「電力は余っている。クリーンエネルギーを

もっと普及させるべきだ」と話し、再生可能エネルギー促進の必要性を語りました。

### いのち、暮らしを守る社会保障に

## 松江生健会が定期総会ひらく

松江生活と健康を守る会は2月18日、定期総会を開き、日本共産党から尾村利成県議、吉儀敬子、田中肇の両市議が参加しました。

ことや、国の医療・介護制度が後退する中で、昨年7月から「無料定額診療事業」を実施し、22件を対応した経験を報告。「病院内だけでなく、病院外の団体等とも手をつなぎ、連携したい」と話しました。

松江生協病院の眞木高之副院長が「病気になるのも医療機関にかからない時代」と題して記念講演しました。

眞木氏は、同病院に救急搬送された患者事例を紹介。健康被害と貧困が密接に関係している

## 資本論の窓から①

今年にはマルクス生誕200年にあたり、昨年はマルクスの名著『資本論』が出版されて150年、再来年はエンゲルス生誕200年、レーニン生誕150年です。この数年は科学的社会主義の創始者たちの記念イヤーです。マルクス生誕200年あたり、ここでは『資本論』の言説を紹介し、理論理解の一助として頂ければ幸いです。(文 T・M)

### 梶井基次郎、宮本百合子と『資本論』

『資本論』は経済学の内容だけでなく、文学者をも魅了しています。作家の梶井基次郎と宮本百合子の書簡の一節を紹介いたします。

梶井基次郎(1929年)「僕は正月から『資本論』を読んでいた。こんな面白いものはトルストイの『戦争と平和』

以来だ。経済の本にして経済の本ではない。何シリング何ヘニイというように、経済学のことばかり思っていて読まなかった以前がうらめしくなる位だ。左傾や右傾やの問題ではなく、大まざるを得ない、というふうなものだ。僕は最近自分の文体を研いて

ゆくのにマルクスのそれ、ストリングベルヒのそれ、モーパッサンの「水の上」のそれを手本だと思っています。マルクスは非常に魅力の多い文体です。」

宮本百合子(1939年3月『十二年の手紙』)「このごろ、やっと大らかな著作の読書にとりかかって、感謝おくれたわず、です。涙ぐむほどの羨望です。純粋の羨望であって、腹のなかでは顛えるようです。小説においても、文芸評論においても、こういう態度に些か近づくと得れば、本当に死んでもいい、と思う。学問、最も人間的な学問というものの態度、鋭い分析と総合と

の間で生き物である現象をとらえ、本質を明らかにしつつ再び活物としての在りようをその全関係と矛盾との間で描き出す力。そしておどろきを新たにすること。は、これらの精気溢るる筆が、対象をあくまで追究しつつ、決して、作家の頭にあるような読者を問題にしていず、念頭になく、筆端は常に内向的であることです。真の文学評論は、正にこういう性質のものでなければならぬのです。ね、作品に即して、その世界の内外をあまねく眺め、よって来るところ赴く客観的なものなどが、煩いとなっていない学芸性。」(不定期掲載)

## くらしと命を守る県政へ ⑥子育て(保育料の無償化)

日本共産党県議団(尾村利成、大国陽介県議)の議会論戦を紹介しながら、県政をめぐる諸課題(医療・介護・福祉、原発、雇用・経済、教育、農業など)について連載していきます。今回は子育てについて取り上げます。

### ●安心して子育てできる、希望ある社会に

日本では、子どもや子育てへの社会的なサポートが先進諸国の中で際立って弱く、働くことと子どもを産み育てることとの矛盾が広がり、出産・子育てが困難な国になっています。内閣府の結婚・子育てについての意識調査で、「希望する人数まで子どもを増やしたいか」という質問に、4割以上が「増やさない」「増やせない」と回答しています。自公政権が不安定な雇用と低賃金、長時間労働を広げ、教育費、税金や社会保険料などの負担増など、子育て支援に逆行することばかりをすすめてきたからです。

日本共産党は、安心して子育てできる人間らしい働き方とくらしを実現するために力を尽くします。子どもたちが大切にされ、健やかな成長を保障できる希望ある社会をつくります。

### ●保育料、幼稚園授業料の無償化を、待機児童解消とともにすすめます

第2子の保育料の無料化など、自治体の努力で保育料無償化を拡充する市町村が増えています。右表は、自治体ごとの国基準での保育料の金額と調定額です。吉賀町は保育料が無料のため、調定額はゼロです(国基準との保育料を比較した際、割合が低い自治体ほど、保育料が低いこととなります)。

県議団は、子育て支援の充実が子育て世帯のみならず、県民の願いでもあり、地方再生、少子化対策からも最重要課題の一つだと強調し、保育料の軽減策の拡充や子どもの医療費助成の中学校卒業までの無料化を求めて論戦してきました。

### ●日本共産党の政策

◆国の予算を引き上げ、高すぎる国の保育料の基準額を改善し、保育所、幼稚園の保育料・授業料の無償化をすすめます。◆認可保育所などに入れず、認可外保育所を利用する子どもの保育料の軽減制度をつくります。◆児童手当を拡充し、現在、中学校卒業までの支給期間を18歳までに延長することをめざします。

■平成29年9月分保育料(公立・私立 認可保育所)

	国基準	調定額	割合
松江市	219,689	105,782	48%
浜田市	46,808	22,960	49%
出雲市	162,437	102,864	63%
益田市	38,347	22,584	59%
大田市	31,213	17,373	56%
安来市	19,502	12,034	62%
江津市	19,118	11,839	62%
雲南市	25,488	9,332	37%
奥出雲町	12,163	3,842	32%
飯南町	3,660	717	20%
川本町	2,957	719	24%
美郷町	4,519	475	11%
邑南町	12,418	3,308	27%
津和野町	4,184	1,357	32%
吉賀町	5,111	0	0%
海士町	3,104	2,024	65%
西ノ島町	2,804	1,283	46%
知夫村	871	238	27%
隠岐の島町	16,325	3,494	21%

(単位:千円)